



## 上州温泉紀行 / 川場編

2002年 5月16日掲載

ふくちゃんの紀行シリーズ、今回は再び温泉もの。上州路の旅の模様をお送りする。

ゴールデンウィークの谷間を利用して、群馬の温泉を巡ろうと考えた。しかも、1泊2日だ。

手元にある公共の宿の本で宿を探し、予約。連休の谷間ということもあり、川場村の宿をすんなりと取ることができた。

ただ、時間の都合で夜9時過ぎのチェックインとなる。その旨を宿に伝えると、「夕食はありません」との返事。つまり、食事は外で済ませということなのだ。

いよいよ当日、川場村へ向け出発！ 中華のファミレスで食事をし、車もセルフスタンドで食事させる。そして、夜の関越道を下る。

1時間ほどで、最寄りの沼田ICに到着。さらにそこから10分、宿に着いた。

チェックインをすませ、部屋へ。すると、この日の宿泊客はたった3組なのだ。さすがは、GWの谷間である。

部屋に荷物を置いて、待望の温泉へ向かう。宿泊客が3組なので、浴場も貸し切り状態。さすがに浴槽で泳ごうとは思わなかったが。

でも、最後の方にほかの客も入ってきた。大浴場に1人というのは、やはり寂しいものがある。

そして、温泉から出る。部屋に戻っても汗がひかないのは、温泉の効能であろう。

しばらくして汗もひいてきたので、テレビでも見ながら眠りにつく。

翌日、朝起きて朝ご飯。その後、出発の準備をする。

そして、チェックアウト。宿の周りを散策する。

宿に到着したときには真っ暗で気がつかなかったが、庭には鯉のぼりがあがっていた。また、同じ敷地にはラジコンのサーキット場もある。どうりでフロントにラジコン雑誌がおいてあると思った。

宿のすぐ隣には、小学校の旧校舎を利用した資料館も。また、宿の名の由来となったSLも鎮

座していた。



なぜ鉄道のない川場村にSLなのかはわからないが、かれこれ25年くらいはこの場所にいるらしい。

川場村をあとにし、ロマンチック街道を草津へと向かう。途中、晴れ間がのぞくも小雨が降ったりして、変な天気である。

しかし、草津に近づくにつれ、雨足が強くなってくる。傘は持っていないので、草津ではずぶ濡れに?!

そうこう考えているうちに、草津に着いてしまった。この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



## 上州温泉紀行 / 草津編

2002年 5月26日掲載

2回にわたり、上州の温泉を満喫する旅の様をお送りしているが、今回はその2回目。1回目の「川場編」は、[こちら](#)をご覧ください。

ロマンチック街道を走っていくうちに雨が降り始め、草津に着いたら傘なしではつらい状態に。湯畑脇の駐車場に車を止め、土産物屋で傘を購入する。

傘を差しながらも、草津の中心地、湯畑を1周。不意の雨と見えて、ほかの観光客もビニール傘である。



今回は、西(さい)の河原の露天風呂に入る。湯畑からは歩いて5～6分の距離である。

その道のりは、当然土産物屋や旅館が建ち並んでいる。しかし、1軒だけ、かなり強力な土産物屋があった。

草津といえば温泉まんじゅう。その温泉まんじゅう屋の営業活動がすごいのだ。

ほぼ無差別にふかしたての温泉まんじゅうを通行人に配り、お茶まで出す始末。しかも、私が持っていた傘も取り上げ、傘立てにしってしまうほどの強引さである。

店側としては、そこでそのまま買ってくればという戦略であろう。でも、私は温泉に入りたいので、まんじゅうを食うだけ食って西の河原に向かった。

ようやく西の河原の露天風呂に到着。そのころには、雨も小やみになってきた。

ここの露天風呂は、かなり広い。端から端まで、推定で20mくらいはある。

そして、温泉からあふれたお湯は、そのまま川に垂れ流し状態。確かに、温泉の下を流れて

いた川はほのかに温かった。

温泉からあがり、草津でおみやげを購入。車に戻ると、車内に硫黄のにおいが立ちこめていた。さすがは湯畑の目の前の駐車場である。

今度は、一路軽井沢へ。途中、北軽井沢の浅間牧場でソフトクリームを食べ、白糸の滝を見学した。

軽井沢に入り、旧軽井沢を散策。旧軽銀座で、妙なものを見つけた。



左の「軽井沢ドッグ」は理解できる。が、右の「東京巢鴨カレーパン」とは？

さらに、この写真では見にくいですが、「軽井沢ドッグ」の下には「巢鴨豚饅頭」と書いてある。巢鴨の名物を軽井沢で売っていいのか？ いささか疑問ではある。

軽井沢を離れ、碓氷バイパスへ。昔は有料道路だったが、最近無料化されたいらしい。料金所はまだかと思っているうちに、麓の横川に着いてしまった。

横川といえば「峠の釜めし」。もちろん、ドライブインで食べた。

ところで、釜めしをおみやげにもらったら、容器の釜はどうするのか？ 何に使うかわからないのに、ついとっておいてしまうから不思議である。包み紙の「1合分のご飯が炊けます」という言葉に、つい惑わされるからなのか？

松井田妙義ICから上信越道に乗り、そのまま関越道で帰途に。途中、雨が降ってきた。草津の雨を持ってきてしまったのか？

結局雨はやまないまま、家に着いてしまった。

[\[トップページ\]](#)

さて、次はどこを巡ろうか？